

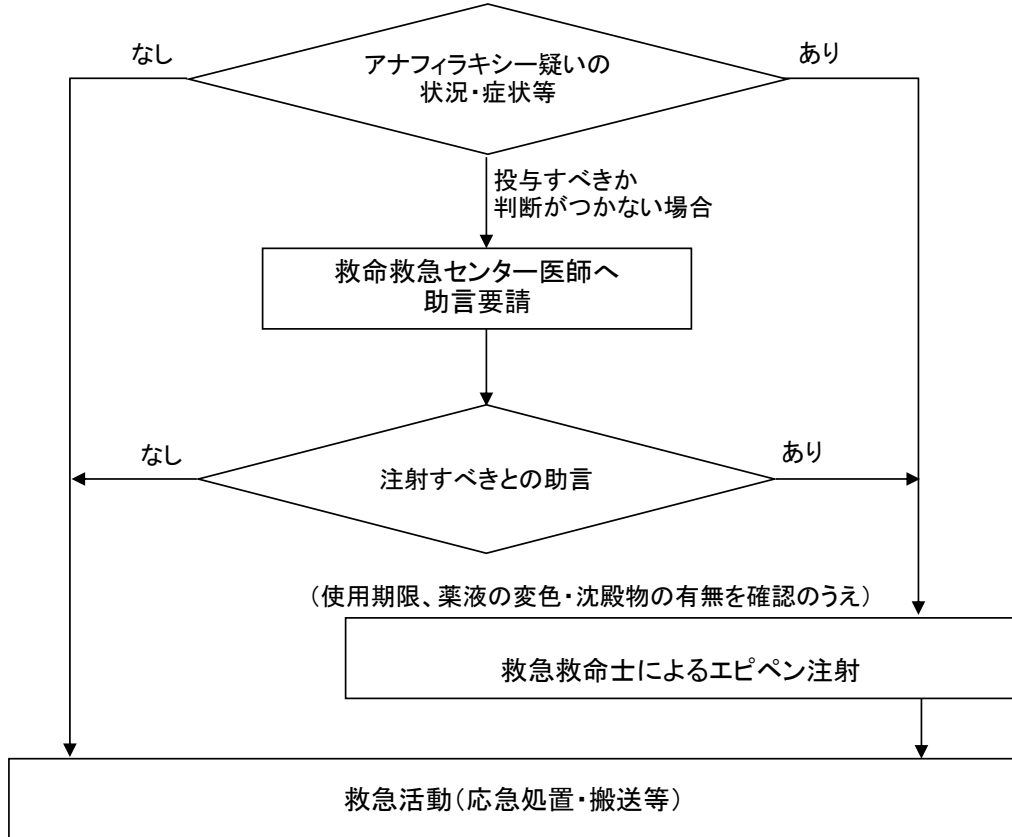
自己注射が可能なアドレナリン製剤投与のプロトコール

平成22年5月27日策定

119通報の時点でアナフィラキシーが疑われた場合、エピペン処方及び携行の有無を確認し
 ○ 処方医の指示通りに対応するよう指示
 ○ 学校からの問い合わせの場合は「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」に従って対応するよう指示

【必須事項】

- エピペンの処方あり(119番通報時等に確認)
- アナフィラキシーが疑われ、本人がエピペンを打つことが困難な場合



- 搬送先医療機関に状況、処置、バイタルサイン、アドレナリン製剤注射時間の報告
- 使用済注射器はリキャップせずハザードボックスに廃棄。
搬送先医療機関にて医師の確認を受ける(提出不要)。
- 事後検証の実施

【アナフィラキシー疑いの状況・症状】

- ハチ刺傷、食事(+運動)、服薬等アレルギーとの接触の可能性あり
- 以下いずれかの症状あり(基本は、2つ以上の臓器に症状が現れたもの)

観察項目	自覚症状	他覚症状
皮膚	掻痒感、発赤、蕁麻疹	血管性浮腫、皮膚の蒼白、一過性紅潮、眼瞼・口腔内粘膜浮腫
消化器	口腔内掻痒感、違和感、口唇腫脹、悪心、腹痛、腹鳴、便意、尿意	便、尿失禁、下痢、嘔吐
呼吸器	鼻閉、くしゃみ、咽頭喉頭の掻痒感・絞扼感、嚥下困難、鼻水、胸部絞扼感	嘔声、犬吠様咳嗽、喘鳴、チアノーゼ、呼吸停止、呼吸困難
循環器	頻脈、心悸亢進、胸内苦悶	不整脈、血圧低下、徐脈、血圧低下、心停止、脈拍減弱
神経	不安、頭痛、死の恐怖感、四肢末梢しびれ、耳鳴り、めまい	意識消失、痙攣